

日本のふるさと。自給自足的循環社会

広報 京丹波 11

NO.157 2018.11.16 発行 TOWN KYOTAMBA

いっぱいとれたよ

- 02 タウンミーティング
- 05 表彰
- 06 安心ほっと便り
- 07 くらしのガイド
- 08 いきいき健康術
- 10 まちの話題

タウンミーティング

～地域の皆さまと太田町長で健康の里づくりに向けたミーティング～

地域の皆さんと太田町長が同じ目線で、まちを健康にしていくために話し合い、町政をより身近に感じていただくための懇談会を、7月3日から8月9日まで12会場で開催し、440人に参加いただきました。

「タウンミーティング」では、平成30年度予算と主要事業、新庁舎建設計画、丹波地域開発株式会社への公金投入について説明を行った後、町政に対する率直なご意見をいただくなど、まちづくりについて話し合いました。

平成30年度町政懇談会

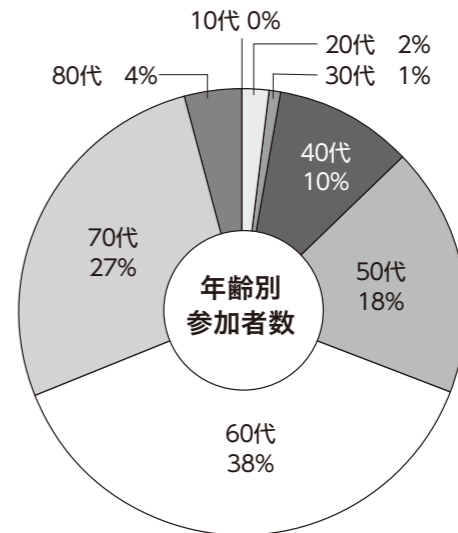


アンケートの 集計結果

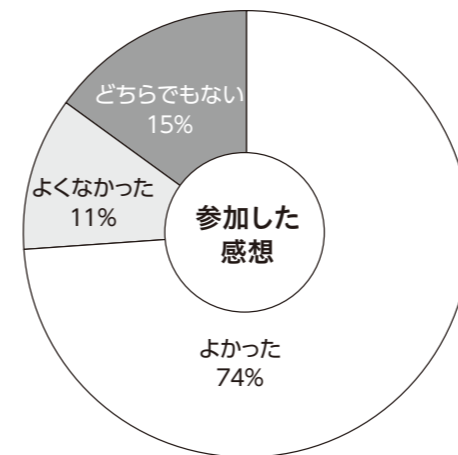
実施したアンケートに、335人（回収率76.1%）の回答をいただきました。

参加者の約9割が男性で、50歳代から70歳代が約8割、60歳代が全体の約4割を占めました。

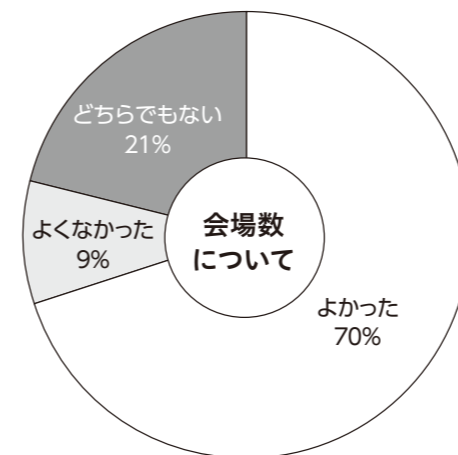
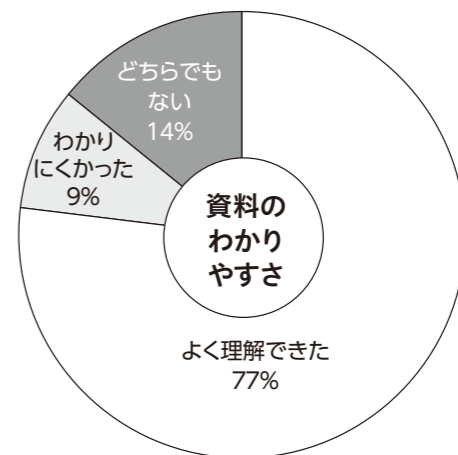
全体的な感想としては、参加者の74%が「よかった」と答え、「2つの柱の内容について、わかりやすい説明でもやっていた事がすっきりした」、「真剣な答弁が感じられた」な



どの感想が寄せられました。また、説明や資料については、77%の方が「よく理解できた」とし、「担当職員の説明を受けて理解できた」、「良い面だけをクローズアップすることなく、悪い面についても現状が理解できる



ように載せられており、とてもよかった」との評価がありました。一方で、「会場数を増やして欲しい」、「質疑応答の時間を長く取ってほしい」などの懇談会の改善を望む声もありました。



タウンミーティングの場でも出された意見や質問の一部を紹介します。

※回答Aは、当日の回答に補足しています。

新庁舎建設計画について

新庁舎へ配置部署で、教育委員会が入っていないのはなぜか。

A 教育委員会を和知支所に残す理由として、豪雨時に和知と丹波をつなぐ国道27号は交通規制がかかり、行き来ができなくなることもあるので、防災面を考慮する程度で職員を配置しておく必要があります。また、支所の2階は、林業大学が利用しています。今後耐震診断の結果など慎重に検討しながら有効的に活用できるように努めたいと考えています。

新庁舎の建設には期待しているが、合併特例債の償還期間、利子はどうなのか。

A 合併特例債の償還は25年で、元金は3年据え置かれて毎年1億数千円程度の返済となる見込みです。現在の利子は0.1%程度で、26億円のうち70%が普通交付税に算入されるので、30%を一般財源として負担することになります。さらに全体の5%の3億5千万円が一般財源となります。事業費が過大とならないようコスト縮減に留意していきます。

建設費用について、旧高原小跡地の方が安くつくと思うが、なぜ現在の計画地に決まったのか。また、過去に検討されなかったのか。

A 新庁舎の検討が始まった時点では、旧高原小跡地はすでに特別養護老人ホーム丹波高原荘として活用されていました。新庁舎の位置は、現庁舎、旧須知小、丹波マークスを含めて比較検討し決定したものです。



今後、中央公民館の扱いはどうするのか。

A 中央公民館は、老朽化しているので、将来的には新庁舎横の図書館等検討エリアの中で集約できればと考えています。今のところ現存のまま使用していきます。

図書館は若い保護者のニーズが高く、少子高齢化の中で必要不可欠であると思う。

A できるだけ、早期に実現したいと思っています。新庁舎でも、本を持ち込んで読者や勉強ができる場所を交流ゾーンに検討しています。



新庁舎内観イメージ



新庁舎外観イメージ

大粒に実った 秋の恵み

第2回丹波くり広域品評会

京都府と兵庫県で生産された丹波くりを対象にした「丹波くり広域品評会」が10月5日、南丹市の国際交流会館で行われました。府内で初開催となる大会で、京都府と兵庫県にまたがる丹波地方の生産者組織などが実行委員会を組織して開催。品質を競い、栽培技術の伝承向上を目的に行われ、今年は京丹波町、福知山市、綾部市、亀岡市、南丹市の各市町から65点、兵庫県丹波市、篠山市から98点が出品されました。

京丹波町からは4人が受賞されました。

受賞者は次のとおりです。(敬称略)



表彰式の様子

全体賞	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事長賞	山内 幸枝(市場)
	京都府知事賞	白樫 貢(下乙見)
地域賞	京都府特用林産振興連絡会長賞	丹波農園 谷 正剛(曾根)
	京丹波町長賞	梅原 眞(小畑)

CONGRATULATIONS

木のぬくもりある 作品が勢ぞろい

もくもくコンクール

環境にやさしい木材利用を促進するイベント「木材まつり2018」が、10月の「木づかい推進月間」に合わせて、京丹波町と南丹市の各地で行われました。

10月5日と6日には、京都府内産の木材を使った「もくもくコンクール作品展」が道の駅「丹波マール」で行われ、京丹波町と南丹市の小中学生が夏休みなどを利用して制作した木工作品154点が展示され、作品を一目見ようと多くの人でにぎわいました。

また、11月3日に南丹市で開かれた「木工教室in美山ふるさとまつり」で、もくもくコンクールの表彰式が行われました。

京丹波町の受賞者は次のとおりです。(敬称略)



表彰状を受け取る片山力葉さん

中学校の部	京都府南丹広域振興局長賞 和知中学校1年 片山 力葉 「折りたたみ式の椅子」
	近畿中国森林管理局長賞 瑞穂中学校1年 山本 勇歩 「救急箱」
	京丹波町長賞 蒲生野中学校1年 山崎 彰太郎 「座れるゴミ箱」
	京都新聞賞 蒲生野中学校1年 土居 清和 「本棚、スマホ置き」
	南丹・京丹波林業振興展実行委員会会長賞 蒲生野中学校1年 浦宗 姫花 「小物置き(CD・DVDなど)」 蒲生野中学校1年 古澤 華 「植物を置く棚」
小学校の部	近畿中国森林管理局長賞 瑞穂小学校6年 北村 達也 「棚」
	京丹波町長賞 瑞穂小学校4年 山下 峻介 「パチンコちよ金箱」



丹波地域開発株式会社への の公金投入について

町の説明では、公金投入について問題がないという説明であったが、町長の考えはどうか。

全く問題がないとは考えていません。議会には説明していますが、町民に対して説明していない状況で、投入前に十分な説明をすべきであったと考えています。

マーケスについては、不特定多数の

方が利用している施設であり、町内で日常商品を一括して買い物ができる場所であるとともに、道の駅として観光や文化、コミュニティ振興などさまざまな役割や機能を担っていることから、施設存続のための支援は公益性があったと考えています。

最大の問題点は、4年経過するまで町民に説明がされなかったことと考えています。

町の財布(税金)から公金を投入しているのです、事業者責任をもっと厳しく追及していくべきではないか。

取締役会などの責任については、職務怠慢や不法行為をして損害を与えた場合には、個人の賠償責任が発生すると思います。

今回の場合は、無報酬の役員などに対し、そこまでの責任追及はできないと判断されたと考えます。

6億700万円の支援の後、丹波地域開発はどうなったのか。

経営について、一番の重荷であった高度化資金の支援により返済が終わった後は、資金繰りが改善して安定してきています。将来的には、会社において建物の老朽化対応やテナントが空いている部分を埋めていくことなど、利ユーザーを増やしていく努力が必要です。

町はいつまで支援するのか。また、撤退する店舗が増えないようにしてもらいたい。

経営支援後、会社においては開店当時の高額だった賃料を引き下げるなど、テナントの経営改善に向けた支援を行っています。また、町から役員を派遣しているのです、全体的なバランスを考えて判断したいと考えています。

町民の皆さんが積極的にご利用いただくことが、継続的な施設運営につながると思っています。

今後、利用しやすい店舗、施設として改修などを検討していただき、町民にとって自慢できるものになるようお願いしたい。

町民の皆さんが、近隣の市町の店舗を利用して買い物されている実態がある中、魅力ある店舗づくりを町としても見守っていきます。

その他意見について

防災ハザードマップで危険度の高い箇所がわかるので、順位をつけて対策を取ることが大事ではないか。

危険箇所の要望については、引き続いて町として府などに要望していきます。

まず逃げてもらう事が先決です。地元の方々が一番良く地域を把握されている関係から、避難所にも課題がありますが、場合によっては逃げるルールづくりをお願いします。今回、上乙見の方々は、消防団が率先して指示をしてうまく逃げていただきました。地域で話し合って避難していただきたいと思います。

インターネットの速度が遅いので、民間の活用や誘致はできないのか。

何かいい事業がないか、4月に総務省に陳情に行きました。民間業者が参入されないのはケーブルテレビがあるからではなく、採算性の問題で参入いただけない現状です。重要な課題であるので、民間活用も含めて検討していきます。

京丹波町のサル被害の防止対策について教えてください。

大丹波連携(亀岡市、南丹市、福知山市、綾部市、篠山市、丹波市、京丹波町)の会合の中で、瑞穂・篠山エリアのサルの追い払いを共同で実施することとなっています。大丹波連携の会議があるので、和知・綾部エリアのサルの追い払いについては検討課題です。また、本町の地域おこし協力隊には有害鳥獣担当が一人います。



もったいない! 「食品ロス」を減らそう!

まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」は、全国で年間約621万トンも発生しています。(平成26年度推計)

これは、世界全体の食糧援助量(年間約320万トン)の約2倍にもなります。また、日本人一人当たり計算すると、毎日お茶碗1杯分の食べ物が捨てられていることとなります。

食品ロスの約半数(320万トン)は家庭からの発生で、**食品を食べずに捨てた理由として多いのは「鮮度の低下・腐敗」、「賞味期限・消費期限が過ぎた」**などが挙げられています。

家庭からの食品ロスを減らすため、買い物前には冷蔵庫をチェックし必要な分だけ買うようにし、食材は使い切り、食べきるよう心がけましょう。

「消費期限」(過ぎたら食べないほうがよい期限)と「賞味期限」(おいしく食べることができる期限)を理解しましょう。「賞味期限」が過ぎてもすぐに捨てず食べられるかどうか自分で判断することも大切です。



ご存知
ですか?

さんまる いちまる 30・10運動

「30・10(さんまる・いちまる)運動」という言葉をご存知でしょうか。この運動は「宴会の開始から30分と閉宴10分前には席に座って食事を楽しみましょう」というものです。この取組みは長野県松本市で2011年に始まり、全国に広がりつつあります。

これから増えるイベント(忘年会やクリスマス会、新年会)などで一度実践してみたいかがでしょうか?

京都府では府民や食品関係事業者、行政などが一体となって、食品ロスの軽減に向けた取組を進めるため、「**京都府食品ロス軽減府民会議**」を設置しています。

食材を使い切る工夫や食べ残しを出さない工夫などを実践している店舗を、「**食べ残しゼロ推進店舗**」として認定、今日から実践できる取組などを紹介したリーフレットや、家庭で調理くずや食べ残しを極力出さない調理方法を短時間で分かりやすく学ぶことができるよう「**食べきりクッキング動画**」なども作成しています。



『消費生活相談窓口』 京丹波町では、消費生活に関する相談や情報提供をお受けしています。

消費生活に関する連絡・相談先

京丹波町消費生活相談窓口

電話：0771-82-3803

相談日：水・木曜日

南丹市商工観光課内

電話：0771-68-0100

相談日：月・火・金曜日

南丹市の相談窓口も
利用いただけるよう
になりました!!

1人で悩まず、
気軽に相談して
ください。



安心ほっと便り

京丹波町の「安全・安心まちづくり」を支援している
関西大学社会安全学部の取り組みを随時お伝えします

関西大学社会安全学部と京丹波町との 連携協力に関する協定を締結

今年9月、京丹波町と関西大学社会安全学部は、「安全で安心なまちづくり」のために、ともに力を尽くしていこうと、包括連携協定を結びました。自治体と学部の協定は、全国的にも珍しいパートナーシップのかたちです。

これまでも、ケーブルテレビにおける番組制作などを通して、町と学部は連携を深めてまいりましたが、今後はより一層、暮らしをおびやかすさまざまなリスク——たとえば、災害対策、防犯、食の安全、交通安全、福祉や健康の問題、原子力発電所の事故時の避難など——に向き合っていこうと決意をあらたにしています。



2018.7.13 上乙見地区にて



2017.10.09 質美地域にて



2018.8.24 瑞穂中学校にて



これからも、まなびあい、ささえあいましょう!

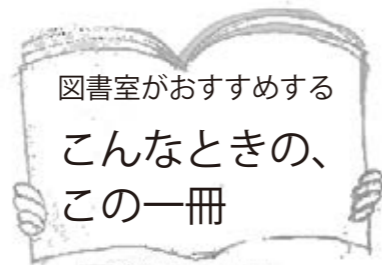
「こんにちは赤ちゃん」
コーナー
申し込み募集

〈対象者〉

町内在住で、申し込み時に生後1歳未満のお子さま〈申込方法〉お子さまの顔写真に申込書を添えて、役場または支所まで、持参・郵送・メールのいずれかで届けてください。申込書は役場本庁、支所、瑞穂保健福祉センターにあります。

【問】

京丹波町企画政策課
電話 0771-82-3801
Eメール
kikaku30@town.kyotamba.lg.jp



図書室がおすすめする
こんなときの、
この一冊

『もりのかくれんぼう』

末吉暁子・作 林朋子・絵/偕成社



家へ帰る途中、幼いケイコはお兄ちゃんとはぐれ、見知らぬ森に迷い込みます。そこで“かくれんぼう”という名の不思議な男の子に会い、たくさんの動物たちとかくれんぼをして遊ぶのですが…ただの絵ではなく秋の森の中に動物たちが隠し絵になっていて、ページをめくる毎に探すことに夢中になります。黄金色の秋の風景は絵画を見るように楽しむこともできます。

（たにざわともこ 谷澤智子さん 松山公民館図書室）

図書室のご案内 中央公民館（蒲生）、山村開発センターみずほ（大朴）、旧梅田保育所（鎌谷下）、三ノ宮基幹集落センター、質美振興センター、和知ふれあいセンター（本庄）
貸出期間 2週間 貸出冊数 1人1回5冊まで

わくわくBOXに
お便りを
いただきました。

地域の伝言板

わくわく
BOX

お便り
募集!!

「家の近くに見慣れないボールがあるなあと近づくとキノコだった。生まれて80年ほどなるが今まで見たことがない。珍しいキノコがあるんですね」と話す大朴区の松村稠雄さん。

発見されたキノコは「オニフスベ」。白色の球状で大きいものでは50cmにもなります。夏から秋に発生し、一夜にして発生するので驚かれることがあります。

今回撮影された「オニフスベ」は20cmほどのものでした。



自宅近所で発見されたオニフスベ

はがきに住所・氏名・電話番号を記入のうえ、皆さんの身近な情報や広報紙への感想などをお寄せください。※匿名希望やイニシャルの場合は、氏名を記入したうえで、その旨を明記ください。（お寄せいただいた情報は随時、掲載します。）

【送り先】〒622-0292（住所不要）京丹波町企画政策課広報京丹波「わくわくBOX」係
ファックス/82-2500 Eメール/kikaku30@town.kyotamba.lg.jp

Dr's Message

いきいき健康術 第135回

町立病院・診療所の医師や専門職員が
健康情報をお届けします。

『便潜血陽性と言われたら』

たかはし あや
高橋 彩 医師 京丹波町病院 水曜日検査担当



日本での大腸がんの現状

大腸がんは、近年急増しています。男女ともに働き盛りの40歳頃から増え始め、がんによる死者数のうち大腸がんは、「男性3位」、「女性1位」です。2020年には男女とも1位になると予想されています。

大腸がんの早期発見のために

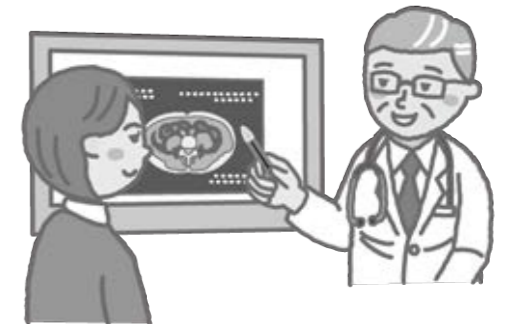
大腸がんは進行するまで、「自覚症状がほとんどありません！」症状がでた時にはすでにがんが進行していることもあります。大腸がんは早期発見・早期治療すれば、「95%以上が治ります」。だからこそ、1年に1回の検診を受けることが大切です。

便潜血検査

日本では40歳以上の男女を対象に主に大腸で出血しているかどうかを調べる便潜血検査が推奨されています。2回検査を行い、1回でも陽性の場合には「採取した便の中に血液が混じっている」ということで、大腸カメラでの精密検査が必要となります。

便潜血陽性＝大腸がん？

便潜血検査では、1000人に約50人が陽性になると予測されています。さらに陽性者の方で大腸がんと診断されるのは、2～3%の1人から2人のみです。しかし、大腸がんがない場合でも、大腸カメラを受けることで、前がん病変のポリープの早期発見・治療につながることもあります。



40歳を過ぎたら
毎年、便潜血の検査を
受けましょう。

要精密検査となれば、
大腸カメラでチェックする
チャンス到来です！

「味夢の里」1千万人達成

道の駅「味夢の里」で記念式典

道の駅「味夢の里」が10月7日、来場者数1千万人を達成し、記念式典を行いました。

同道の駅は京都縦貫自動車道の全線開通に合わせて地域の情報発信拠点として、京丹波パークングエリアと一体的に整備され、2015年7月にオープンしました。京丹波町産の新鮮な農産物や京都府内の土産物などが販売されています。

来場者が予想の約2倍で推移し、当初の目標よりも1年早く1千万

人に到達しました。一千万人目となったのは、京田辺市在住の西裕之さん家族の3人。式典で関係者と一緒にくす玉を割り、太田昇町長らから花束や京丹波町産キヌヒカリなどの記念品を受け取りました。西さんは「京都縦貫道を利用するときは立ち寄るが、まさか1千万人目になるとは」と驚き、「記念品でいただいたお米は大好きですので、おいしくいただきます」と笑顔で話しました。



太田町長らとくす玉を割る西さん親子

京都高島屋で京丹波町PR

京丹波町のおいしいものがたり

10月3日から9日まで京都高島屋で京丹波食材のおいしさや魅力をお届けする「京丹波町のおいしいものがたり」が開催されました。

京都高島屋での京丹波町単独の催しは初めてで、実施にあたっては、行政や商工会、食品加工事業者などで組織する「京丹波町のおいしいものがたり実行委員会」を設置しました。催しでは、京丹波町内の道の駅や食品加工業者が、地元食材を使った

スイーツや惣菜などを販売したほか、秋の味覚である丹波くり、丹波黒枝豆の予約販売も行われました。京丹波の食材を購入されたお客さんは「京丹波町のイメージは田舎でも、新しくておいしいものがありますね」と話し、株式会社高島屋広報担当の坪田彩さんは「産地に行かないと手に入らないものでお客様に喜んでいただいています」と催しに手ごたえを感じていました。



商品を手取るお客さん

地域の活力に

下 栗野阿上三所神社宵宮祭

10月6日、下栗野体育館で下栗野阿上三所神社宵宮祭の演芸奉納が行われました。

演芸奉納は、同神社の大祭の前夜に行われるもので、8年前から地域の交流拠点である体育館を活用されています。下栗野区の20代から60代で構成される「いろ里組」と西河内区の「村さ来会」が一年ごとに交代で行い、今年「いろ里組」が歌謡ショーやコント、劇を披露しました。

神社総代の太田有次さん(下栗野)は「地域のみんが集まって楽しめることをうれしく思います。行事を通して次の世代に伝統を伝えていきたい」と話しました。



演芸を見入る観客

いつまでもお元気で

健康長寿を祝う

9月28日、本年度に百歳を迎える町民へお祝い状と祝金が贈られました。

当日は、太田昇町長と京都府南丹広域振興局の上條正和副局長が百歳を迎える7人を訪問し、多年にわたり社会の発展に寄与されたことに感謝を述べ、長寿を祝いました。

百歳を迎えられた一人で日課として毎日ラジオ体操をし、天気が良いときにはウォーキングをしているという大塚政雄さん(下山)は「20年前に糖尿と高血圧の診断をされて以降、健康に気をつけています。今まで夫婦二人三脚でやってきた。今後も病気なしに妻と一緒に生きていきたい」と話しました。



太田町長からお祝い状を受け取る大塚さん

看護の「ココロ」をみなさんへ

看護の日ブレイクイベント

10月6日、国保京丹波町病院で看護にふれあい、病院に慣れ親しんでもらうイベントが開催され、健康測定やスタンプラリーなどを通して看護師と来場者の交流が行われました。

イベントは、来年5月12日の「看護の日」に向けたブレイクイベントとして初めて開催。看護師が血圧や血糖値、血管年齢などを測定するブースが設けられ、来場者は自身の健康を確認しながら看護師との会話を楽しみました。また、ピアノやフルートの奏者によるコンサートも行われ、多くの来場者でにぎわいました。



看護師と楽しく会話をする来場者

イベントに来場した西田哲さん(下大久保)は「自分の健康状態などが知れてよかった。普段健康には気をつけているがなかなか実践できないので今日は生活習慣を見直す良いきっかけになった。また来年も参加したい」と話しました。



ふるさと応援寄付金のお礼

*敬称略

片山 山治	10万円
樋口 裕城	2万円
松井 美穂子	1万円
藤井 清志	1万円
小林 匠	1万円

*掲載内容は寄付者の了解を得ています

ご寄付のお礼

※災害支援として
1件 430,000円

わたしたちの町

人口	14,286 (-13)
男	6,804 (-9)
女	7,482 (-4)
世帯数	6,328 (-4)
11月1日現在 / ()は前月比	

丹波くりに長蛇の列
京都丹波の特産品である丹波くりをPRする「京都丹波くりまつり」が10月6日、道の駅「丹波マーケス」で開催されました。
このイベントは、生産者組織などをつくる京都丹波くりまつり実行委員会が丹波くりの振興を目的に毎年開催しており、朝から多くの来場者でにぎわいました。丹波くりの即売会では、あいにくの雨にもかかわらず丹波くりを買い求めにきた来場者で長蛇の列ができていました。
会場では、丹波くりの即売会のほか栗大福や栗ご飯、焼き栗などが販売され、来場者は丹波の秋の味覚を堪能していました。



丹波くりを買い求める来場者

ホークスベリー市から留学生が来町

【学】校や地域で友好深める

オーストラリア・ホークスベリー市の学生と本町の中高生の相互交流が行われ、留学生が町内の家庭に滞在しました。

ホークスベリー市との姉妹都市交流は、今年で30年を迎えました。留学生は、15歳から16歳までの男女5人で、9月19日から約一カ月間ホームステイし、町内の中学校や須知高校へ通学しました。

また、滞在期間中、留学生は日本文化体験や国内研修旅行なども行い学習と友好を深めました。

ホストファミリーの吉田賀津子さん(橋爪)は「長いようで短い一カ月でした。英語は話せなかったけど楽しい時間を過ごし仲良くなれた。ペン(留学生)にとって記憶に残る思い出になれば」と留学生との別れを惜しみました。

地方の農林業から学ぶ

【辻】牧場に東京から研修生

9月3日から10月2日までの間、農林水産省から志賀可奈子さんが研修生として上大久保区にある辻牧場にこられました。

志賀さんは、統計データのホームページへの掲載作業や水稻の収穫量、牛の頭数などの統計業務をされています。

研修は、現場の農業を知って理解し、今の業務に生かしていくことを目的に行われました。

研修先の辻牧場では、朝5時半の牛のえさやりから始まり、水稻



ホストファミリーと楽しい時間を過ごす留学生

の稲刈や山へのしいたけ採りなど精力的に活動されました。

志賀さんは「今後仕事をしていく上で農業を体験できたことは良い経験になった。現場の理解を深めていき、今の業務に生かしたい」と目を輝かせていました。

受け入れ先の辻拓也さんは「(志賀さんは)自分で考えて行動できるので色々教えることができました。情報交換で全国の現状を知ることができ、広い視野で今の仕事を見つめ直せるよい機会になった」と話しました。

命のぬくもりを肌で感じる

【和】知中赤ちゃんふれあい授業

幼児との交流を通して命について学ぶ授業が10月11日、和知中学校で行なわれました。

授業は、「幼児ふれあい学習プログラム」の二環として、京丹波町社会福祉協議会の協力で母子3組を招いて行われ、2年生15人が赤ちゃんとおふれあいました。

生徒たちは母親から抱き方を教えてもらいながら赤ちゃんを人づつ抱いたり、母子手帳やエコー写真を見せてもらったりして命の尊さや育児を学びました。また、おなかにおもりをつけて新婦の大変さを体験しました。

梅原一能さん(大倉)は「抱っこは緊張したけど、温かくてふわふわしていてかわかった」と笑顔で話しました。



牛の世話をする志賀さん



赤ちゃんを抱っこする中学生